

| | |
|---------|--|
| 氏名 | 井戸俊夫 |
| 学位の種類 | 医学博士 |
| 学位授与番号 | 甲第254号 |
| 学位授与の日付 | 昭和43年3月31日 |
| 学位授与の要件 | 医学研究科外科系外科学専攻 (学位規則第5条第1項該当) |
| 学位論文題目 | リンパ球の反応性に関する研究 特に輸出リンパ流によるリンパ球放出に及ぼす抗原刺激の影響 |
| 論文審査委員 | 教授 砂田輝武 教授 尾曾越文亮 教授 田中早苗 |

学位論文内容の要旨

リンパ節はリンパ球の産生部位であるとともに、産生したリンパ球のみならず、血液から再循環によってリンパ節に運ばれるリンパ球をも輸出リンパ流を介して大量に放出している。それ故リンパ節の反応を検討するにあたっては、リンパ節そのものの反応性のみならず輸出リンパ流によるリンパ球の放出をも同時に吟味する必要がある。そこで本研究においては、諸種の抗原刺激に対するリンパ節の反応性を輸出リンパ流によるリンパ球の放出を主体として追究した。その結果、抗原刺激によって上述のリンパ球の放出が著しく増加するばかりでなく、多数の幼若リンパ球が放出されることが明らかにされた。抗原性を欠く Freund's adjuvant もリンパ球の放出を著しく増加せしめるが、抗原を加えない場合には幼若細胞の放出を誘発しない。異種移植は幼若細胞を含むリンパ球の放出を著しく増強するが、同種移植はほとんど増加せしめない。

(昭和43年2月岡山医学会雑誌第80巻1.2号に掲載予定)

論文審査の結果の要旨

本研究は家兎の膝窩リンパ節について抗原刺激に対するリンパ球の放出を主体として検討したもので、新しい研究方法によって未知の領域を開拓したものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。